

令和 6 年 9 月 18 日現在

機関番号：27104

研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化(B)）

研究期間：2019～2023

課題番号：19KK0049

研究課題名（和文）アジアにとっての近代化の意味～開発と近代化を巡る世界観の異相を解き明かす

研究課題名（英文）The Meaning of Development /Modernization in Asia:Comparing 8 Asian countries

研究代表者

佐藤 寛 (Sato, Hiroshi)

福岡県立大学・附属研究所・研究員

研究者番号：50403613

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、アジア各国の開発研究者とともに「アジア発の開発(社会)学」を構想し、国際的に発信することを目的としていた。国際ワークショップをタイ、インドの研究者とともに開催した直後にコロナ禍となり、海外での共同ワークショップの開催が困難となった。このため、オンラインでの研究会開催を行う一方で、日本語での成果取りまとめ班と英語での成果取りまとめ班を分け、効率的な成果取りまとめを目指した。この結果2022年度末には日本語での成果出版を達成、延長が認められた2023年度末にはネパールでの国際ワークショップの開催と英語での成果発信(2024年5月刊行)を達成し当初予定した成果を上げることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

アジア各国における開発学テキストの比較から始まり「アジア発の開発社会学」の形成に至るというアプローチは新たな着眼であった。本研究がきっかけとなり国際開発学会は2022年度から「アジアの開発学」プロジェクトを開始した。また、本研究の英文成果は同学会の機関紙Journal of International Development Studies (JIDS)の2022年度と2023年度の英文ジャーナルのそれぞれ第二特集「Development Studies from Asia」に貢献し、計5本の論文を掲載した。これら成果はアジア各国の開発研究者との今後の共同研究のための重要な礎石となるであろう。

研究成果の概要（英文）：The study has aimed at publishing original discussions on “Development/Social development studies from Asia” in English and Japanese. We have planned a series of international workshops with Asian development sociologists. Unfortunately, COVID-19 disturbed most of our workshop plans. In order to overcome this difficult situation, we rearrange our research team into two groups: one for compiling results in Japanese and the other for compiling results in English and conducting international workshop. As a result, we could accomplish the publication on Development Sociology in Asia in Japanese by the end of FY2022. Then we could carry out an international workshop in Nepal by the end of FY2023, and the dissemination of the results in English (published in May 2024). With these results, we have achieved almost all of the originally planned results.

研究分野：開発社会学

キーワード：国際開発協力 開発援助 近代化 開発教育 社会開発 参加型開発 貧困削減 社会変動

## 様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

研究代表者を中心とするメンバーは、日本における開発社会学の確立を目指して2012年から科研費研究「近代化変圧器としての開発援助～開発社会学の定率を目指して」(基盤C24530611)(2012-2014年度)に着手し、初学者向けの『開発社会学を学ぶための60冊』(2105明石書店)を刊行した。さらに科研費「戦後日本の開発社会学(基盤B16H03708)」(2016-2018年度)の成果を『戦後日本の開発経験』(明石書店・2023)として出版した。またこの間一連の成果を国際開発学会の機関紙『国際開発研究』(2021年1-2号)に「特集：開発/発展をめぐる社会学の位相」として発表してきた。これらの成果を踏まえ、視野をアジアに広げて「アジアにおける開発学、開発社会学の確立」を目指して、2019年10月より本科研費研究を開始するに至った。

### 2. 研究の目的

第二次世界大戦後、経済開発という側面ではアフリカ、ラテンアメリカに比して比較的良好なパフォーマンスを示してきたアジア諸国(特に東南アジア、南アジア)において、開発研究者なくなく開発社会学者はどのような役割を果たしてきたのか、現在果たしているのかを明らかにすることを目指した。

### 3. 研究の方法

アジア各地の大学での開発学・開発社会学のカリキュラム比較を起点とし、当該科目を担当する教員のバックグラウンド、当該科目を履修した卒業生の進路を比較することから、アジアにおける開発学の社会的存在意義、学問的な出自を明らかにすることで、「アジアの開発学」の全体像の把握に至るという方法を取ることにした。

### 4. 研究成果

本研究は開始直後から新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受けたが、一年間の延長を得て2024年2月にネパールで国際ワークショップを開催し所期の計画を完遂するに至った。

#### 【2019年度(10月以降)】

本科研申請の採択通知直後に、タイのチュラロンコン大学における国際ワークショップ(2019年10月14日)が開催され、研究代表者の佐藤寛と研究分担者の浜本篤史が参加した。タイ、インドネシア、シンガポール、マレーシア、ベトナム、ラオスなどから開発研究分野の研究者が30名ほど参集し、本科研の国際共同研究パートナーであるチュラロンコン大学のスリチャイ・ワンゲーオ教授と佐藤が基調報告を行ない、問題意識をアジア各国からの参加者と共有し、ネットワーキングのための基礎作りを行った。

国内では2019年12月6日に東洋大学で、第一回研究会並びに研究分担者の顔合わせを行ない、アジア各国の現地の研究者にそれぞれの国の開発社会学の現状を執筆依頼して、「アジアの開発研究プロファイル」を取りまとめる構想について議論した。その後新型コロナウイルス感染症の拡大により海外との共同研究は延期を余儀なくされた。

#### 【2020年度】

2020度は一切の海外現地調査が実施できなかったのみならず、本研究の研究分担者が北九州、広島、山梨、東京に分散しているため対面での研究会も実施が困難であった。このため国内の研究チームによるzoom研究会を開催(4月、6月、8月、9月)、10月にはzoom研究会に松園祐子教授(淑徳大学総合福祉学部社会福祉学科)をお招きしてタイの都市と貧困についてのお話を伺った。

同様にzoomを用いて2021年2月11日に第一回目の国際ワークショップを開催した。チュラロンコン大学のスリチャイ・ワンゲーオ教授を招き、タイ(チュラロンコン大学、Jakkrit Sangkhmanee氏)、フィリピン(アテネオ・マニラ大学氏Leslie Advincula-Lopez氏)、スリランカ(奈良県立大学ニルマラ氏)から各国の「開発社会学」プロファイルのドラフトを報告して頂いた。本ワークショップには東京大学東洋文化研究所の佐藤仁教授、韓国ソガン大学のキム・ソヤン准教授の参加も得た。その後タイについては2月17日、フィリピンについては3月9日にそれぞれの担当者と意見交換を実施した。

#### 【2021年度】

2021年度も新型コロナウイルスの影響を受けたが、研究メンバーは個別に開発社会学分野での研究と、それぞれのカウンターパート研究者(タイ、フィリピン、インド、インドネシア、ネパール、韓国、中国、スリランカ)との意見交換を継続し、最終成果「アジアの開発社会学プロファイル(仮題)」(日本語版、英語版)の作成に向けて活動を継続した。日本語版については浜本篤史を中心として出版準備、原稿執筆を開始した。

英文での成果発表は主として研究代表者の佐藤寛が準備作業を継続した。成果発表の場として、国際開発学会(会長・佐藤仁・東大東洋文化研究所教授)の英文雑誌で特集号を企画し、そこに掲載する運びとなった。また佐藤寛は、本研究活動の国際的な周知のためにオープンアクセス出版を利用した英文による研究紹介を継続した(2020年度はImpact誌2021年5月号pp.38-40に、2021年度はOpen Access Government誌2021年10月号p.370-371に掲載)。

海外の研究協力者との意見交換のためスリチャイ・ワンゲーオ教授以外に、複数の研究者が同席するオンラインのワークショップの第二回を2022年3月18日に開催した。

#### 【2022年度】

日本語成果発信班は2023年3月に、早稲田大学先端社会科学研究所の紀要(ソシオサイエンス29巻1号)において浜本を責任編集者とする特集号を発表した。この特集ではアジア7カ国(中国、韓国、フィリピン、タイ、ネパール、インド、スリランカ)を対象とする8本の論稿を収録した。そのタイトルは以下の通り。

浜本篤史 『特集によせて アジアにおける開発/発展の社会学研究を求めて』

李国慶(中央民族大学民族学・社会学学院) 『中国における発展観の変遷と研究者の政策実践～富永健一による近代化論の受容を振り返って～』 翻訳:郭佳慧(早稲田大学大学院社会科学研究科) 編集:浜本篤史

金銀恵(釜山大学社会学科)、洪徳和(忠北大学社会学科) 『韓国における「開発に関する社会学研究」の軌跡～祖国近代化の熱望から発展主義の批判的再構築へ～』

アドピンクラ・ロペス・レスリー(アテネオ・デ・マニラ大学社会科学部)・吉田舞

『フィリピンにおける開発と社会学～包摂的發展と排他的開発～』

松園(橋本)祐子(淑徳大学アジア国際社会福祉研究所) 『タイにおける「開発」の変遷に関する考察～政策と言説と実践の視点から～』

佐野麻由子 『ネパールにおける「開発社会学」「開発の社会学」の輪郭』

佐藤裕 『インド社会学における貧困問題の研究動向～開発政策・言説・実践とのかかわりから～』

ラナシンハ・ニルマラ(奈良県立大学地域創造学部) 『スリランカにおける開発と社会学研究の動向』

この特集号を通じて、アジア諸国での開発/発展にかかる社会学研究の動向として、旧宗主国を含む西欧および北米の影響が大きく、しばしば米国から導入された農村開発プログラムと親和性をもったこと、開発/発展の社会学というサブ領域はいずれの国でも制度化されていないこと、近年では持続可能な開発/発展の文脈に収斂しつつあるといった傾向を把握した。他方、アジアは一様ではなく、従属論の受容のあり方も国によって異なり、政権の変遷と民主化過程のなかで社会学研究も揺れ動きがあったことを確認できた。

他方、海外活動班は海外ワークショップの開催には至らなかったが、国際開発学会の「Journal of International Development Studies(国際開発研究)」(31巻第3号・2023年3月発行)の英文特集号の第二特集として成果3本を掲載した。タイトルは以下の通り。

***A possibility of Development Studies in Asia*** (Sato Kan Hiroshi)

***Making a Case for Postcolonial Thinking in International Studies*** (Soyeun Kim,  
Sogang University)

***Socio-structural Forces in the Development of Philippine Sociology*** (Leslie  
Advincula-Lopez, Ateneo de Manila University)

【2023 年度】

研究期間の延長が認められたため、2023 年 4 月 19 日にオンライン研究会を行い、英文成果の発表と国際ワークショップの実施を軸に、各自が研究を継続することを確認した。

この方針の下、佐藤裕はスウェーデンのルンド大学(Faculty of Social Sciences, Lund University, Sweden)での在外研究に従事した。吉田舞は、研究協力者のレスリー教授(アテネオデ・マニラ大学)を 6 月に日本に招き、各地で意見交換会を実施する一方、9 月 13 日にはフィリピンのアテネオ大学でのセミナーに参加し研究報告(Yoshida, Mai, Inclusivity and the Formal-Informal Economies, Development, Justice and Inclusion)を行った。佐野麻由子はネパールでの現地調査実施と並行して、研究協力者の Sagar R. Sharma 教授(同大学ヒマラヤ・アジア研究センター所長)とともに国際ワークショップの準備作業を行った。研究代表者の佐藤寛は英文成果の執筆作業と並行して 2024 年 2 月 27 日にカトマンズ大学のヒマラヤ・アジア研究所にて Future of Development Studies と題する国際ワークショップで基調講演を行った。同ワークショップには 10 名の研究者の他、オンラインで佐藤裕が参加しコメントーターを務めた。プログラム概要は以下の通り。

- Keynote Speech: *How to create "Development Sociology from Asia"* Sato Kan Hiroshi
- *Reflections on Development Studies in Nepal*: Sagar R. Sharma
- Comments and Reflections: Prof. Mahesh Banskota & Prof Yutaka Sato
- General Discussion: Development Sociology in Asia and Future Research Design
- *Migration Landscape in Nepal*: Sagar R. Sharma
- *Migration Experience of Japan: Past and Present* : Sato Kan Hiroshi
- General Discussion :Moderation by Sagar R. Sharma

英文報告書は、昨年度に引き続き国際開発学会の『国際開発研究』第 32 巻第 3 号(英文特集)に三本の原稿を掲載することができた(2023 年 5 月出版)。タイトルは以下の通り。

***A possibility of Development Studies in Asia(2) ~ How to change the hierarchy of knowledge production on development ~***(Sato Kan Hiroshi)

***Development Studies in Transitional Countries: Bird's Eye View from Nepal***(Sagar Raj Sharma, Himalayan Centre for Asian Studies, Kathmandu University)

***Parallaxes in the Asian Development Experience :A Case Study of Reviewing 'Saemaul Movement' from South Korea, Japan and China*** (Muyun Wang: Hyomin Jung: Kanako Omi)

本研究では、新型コロナウイルスに大きく影響を受けたものの、上記のように 2022 年度末には日本語での成果出版を達成、2023 年度末にはネパールでの国際ワークショップの開催と英語での成果発信(2023 年 3 月/2024 年 5 月)を達成し、当初予定した成果をおおむね実現することができた。(了)

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 6件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 浜本篤史	4. 巻 29-1
2. 論文標題 特集によせて-アジアにおける開発/発展の社会学研究を求めて	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 ソシオサイエンス	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20556/00094001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 佐野麻由子	4. 巻 29-1
2. 論文標題 ネパールにおける「開発社会学」「開発の社会学」の輪郭	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 ソシオサイエンス	6. 最初と最後の頁 78-97
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20556/00094006	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 吉田舞、アドピンクラ・ロベスレスリー	4. 巻 29-1
2. 論文標題 フィリピンにおける開発と社会学-包摂的發展と排他的開発-	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 ソシオサイエンス	6. 最初と最後の頁 45-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20556/00094004	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 佐藤裕	4. 巻 29-1
2. 論文標題 インド社会学における貧困問題の研究動向-開発政策・言説・実践とのかかわりから-	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 ソシオサイエンス	6. 最初と最後の頁 398-117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20556/00094007	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐藤寛	4. 巻 31-3
2. 論文標題 A Possibility of Development Studies from Asia	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Journal of International Development Studies	6. 最初と最後の頁 81-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 李 国慶、郭 佳慧、浜本 篤史	4. 巻 29
2. 論文標題 The Changing Conception of Development and Policy-Academia Relations: Revisiting Kenichi Tominaga's Modernisation Theory in Chinese Sociology	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 ソシオサイエンス	6. 最初と最後の頁 15~28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20556/00094002	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sato Kan Hiroshi, Kazuko Tatsumi, Mariko Sakamoto, Mayuko Sano	4. 巻 2021 no.4 May
2. 論文標題 Sociology of precondition for Japanese Miracle	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Impact	6. 最初と最後の頁 38-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.21820/23987073.2021.4.38	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sato Kan Hiroshi	4. 巻 2021 October
2. 論文標題 Social Impact of Development Aid in Developing Countries	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Open Access Government	6. 最初と最後の頁 370-371
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sato Kan hiroshi	4. 巻 32-3
2. 論文標題 A possibility of Development Studies in Asia(2) ~How to change the hierarchy of knowledge production on development ~	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Journalof International Development Stidies	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 2件)

1. 発表者名 Sato Kan Hiroshi
2. 発表標題 Necessity of Asian Style Development Studies
3. 学会等名 North-East Asia Development Cooperation Forum 2022 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Yoshida Mai
2. 発表標題 Yoshida, Mai, Inclusivity and the Formal- Informal Economies,
3. 学会等名 Development, Justice and Inclusion, Ateneo de Manila Symposium (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 佐藤寛編	4. 発行年 2024年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 152
3. 書名 戦後日本の開発経験	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	佐野 麻由子 (Sano Mayuko) (00585416)	福岡県立大学・人間社会学部・教授  (27104)	
研究分担者	佐藤 裕 (Sato Yutaka) (40534988)	都留文科大学・文学部・教授  (23501)	
研究分担者	吉田 舞 (Yoshida Mai) (50601902)	北九州市立大学・法学部・准教授  (27101)	
研究分担者	浜本 篤史 (Hamamoto Atsushi) (80457928)	早稲田大学・社会科学総合学術院・教授  (32689)	

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

国際研究集会 アジアの開発社会学（オンライン）	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 Future of Development Studies	開催年 2024年～2024年

## 8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
ネパール	カトマンズ大学	ヒマラヤ・アジア研究所	